

研究の概要

1 研究のテーマ

主体的に学ぶ児童の育成

～ICT利活用による基礎学力の定着と学びに向かう力を育む指導方法の工夫～

2 研究のテーマ設定の趣旨

吉野ヶ里町東脊振中学校区は、小中各一校からなり、東脊振小学校を卒業後、東脊振中学校に進学する児童が多くを占めている。以前は、文部科学省の指定（平成 28 年度）を契機として、両校とも特別の教科・道徳を中心に研究を進め、児童生徒の心の育成を図ってきた。本校の児童は誰とでも親しく関わることができる児童が多い。その反面、友達と競い合ったり、周りからの刺激を受けたりする機会が少ないためか、学力向上を目指して自分から進んで学習に取り組もうとする児童は多くはない。また、集中することや粘り強く取り組むことが苦手なため、学習に苦手意識をもつ児童もいる。学習状況調査等の結果を見ると、県平均に近づいてはきているが、国語の読解力や算数の「見方・考え方」、「説明する力」等に課題が見られ、県平均を下回っている。

あわせて一部の児童においては、家庭学習が習慣化していない等の家庭学習の充実にも課題も見られる。このような児童の実態により、学力は二極化の傾向が少しずつ顕著になっていると考えている。

一方、小学校では令和 2 年度より新学習指導要領が全面実施となり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のための研究及び研修が必要とされてきた。ICT の効果的な利活用については、中央教育審議会から令和 3 年に出された『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）において、「1人1台の端末環境を生かし、端末を日常的に活用することで、ICT の活用が特別なことではなく、『当たり前』のこととなるようにするとともに、ICT により現実の社会で行われているような方法で児童生徒も学ぶなど、学校教育を現代化することが必要である。児童生徒が ICT を『文房具』として自由な発想で活用できるような環境を整え、授業をデザインすることが重要である。」と述べられている。また、本町においては、令和 3 年度より電子黒板や児童一人一人へのタブレット PC の貸与も実現しており、授業や学習における効果的な利活用が期待されている。

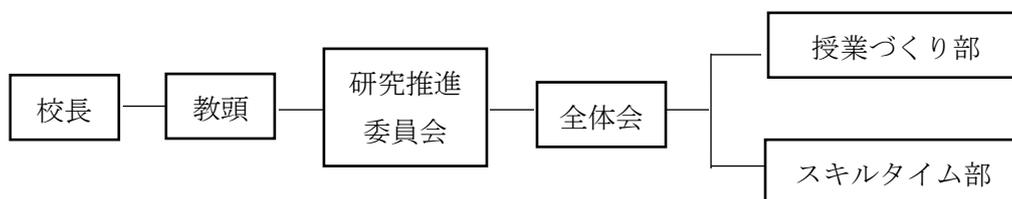
このような本校の現状等を踏まえ、児童の基礎学力の定着と学びに向かう力を育むことを目指していくためには、ICT 機器を利活用して、児童が主体的に学ぼうとする授業の実践や基礎学力の定着のために行っている「スキルタイム」をより充実させていくことが必要である。本校は、昨年度より吉野ヶ里町教育委員会指定研究として「基礎学力向上」について、また今年度より佐賀県教育委員会指定研究として「1人1台端末を活用した授業改善」について、研究を行うこととなっている。今年度は、さまざまな教科の中でも特に国語科および算数科に重点を絞り、ICT 機器の有効的な利活用方法を構築していくことで、協働的な学びの充実や話し合い活動の更なる充実等を図っていきたい。また、日頃行っている「スキルタイム」についても、ICT 機器を利活用し、フラッシュ教材の開発やアプリケーションを使った取組など、児童の基礎学力定着に有効な方法を探っていきたい。

以上のことから、令和 6 年度は、ICT 機器の利活用を念頭に置き、国語科および算数科における授業改善を行っていくとともに、これまで行ってきた「スキルタイム」についても ICT 機器の利活用による更なる充実を図っていく研究に取り組むこととした。

3 研究でめざす児童像

【本校のめざす児童像】		
「知」・・・ 未来に向かって、自ら考え進んで学ぼうとする子供		
「徳」・・・ 人の持ち味を理解し、友達・家族を尊重し補いあえる子供		
「体」(耐)・・・ 自分に自信をもち、様々なことに挑戦し、粘り強く取り組む子供		
低学年	中学年	高学年
ICT 機器を使った学習活動を楽しみ、周りの人と仲良く関わりながら学力を身に付ける子供	進んで ICT 機器を使用し、周りの人と関わり合うことで互いのよさに気付きながら学力を身に付ける子供	自分の課題に合わせて ICT 機器を適切に運用し、互いのよさを認め合いながら学力を身に付ける子供

4 研究組織



		授業づくり部 (太田)		スキルタイム部 (内堀)	
低学年部	1	福田	太田、塚原	園田	小林、内野
	2	原田		野口	
中学年部	3	宮崎	藤瀬、福井、大隈	内堀	中島順、田中、諸永
	4	川田			
高学年部	5	北島	納富、中尾	納富	戸塚、中村(葉山)
	6	山本		中島め	

5 研究の内容と方法

(1) 授業づくり部

○ICT 機器の利活用を工夫した国語科あるいは算数科の授業実践

- ・ 授業における効果的な教材・教具作りや提示方法の工夫
- ・ 児童の協同的な学びを支援する学習活動の工夫および実践

(2) スキルタイム部

○ICT 機器の利活用を工夫したスキルタイムの充実

- ・ 児童の自発的学習活動を促す教材・教具作りや提示方法の工夫

6 研究計画

月	日 (曜日)	部会等	内 容
4	5 (金) 10 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・第0回研究推進委員会 ・第1回研究推進委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の方向性について ・研究の概要について
5	2 (木) 8 (水) 15 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回研究推進委員会 ・第1回校内研 (全体会) ・第2回校内研 (専門部・学年部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織および研究でめざす児童像の確認 ・研究の概要について (全体への提案) ・G研の時期、内容について
6	3 (月) 5 (水) 12 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回研究推進委員会 ・第3回校内研 (全体会、専門部) ・第1回全体授業研究会 5-1 算数 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回全校授業研究会に向けて ・授業研究会の協議の柱、スキルタイムの教材の検討について ・授業の展開および話し合い活動の提案について ・「割合」 授業者 納富 正嗣
7	1 (月) 10 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回研究推進委員会 ・第4回校内研 (全体会、専門部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業研究会の記録について」および「専門部会の予定、学年部会の計画について」 ・「東脊振スタイルについて」および「スキルタイムの効果測定について」など
8		*G研に向けて (学年)	*教科や単元の決定、指導案検討など
9	2 (月) 4 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回研究推進委員会 ・第5回校内研 (専門部・学年部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回全校授業研究会について ・具体的な指導案、教材等の検討
10	8 (火) 9 (水) 30 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・第6回研究推進委員会 ・第6回校内研 (学年) ・グループ研究授業 6-1 国語 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回全校授業研究会の具体的内容について ・G研に向けての最終準備 「鳥獣戯画を読む」授業者 山本 将来
11	6 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回全体授業研究会 1-1、4-1 算数 	<ul style="list-style-type: none"> 1-1 「おなじかずずつ」 授業者 福田 瑠美 4-1 「面積」 授業者 川田 開人 助言者 東部教育事務所 指導主事 大森 常正 様
12			
1	8 (水) 22 (水) 29 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回校内研 (学年) ・第8回校内研 (専門部) ・第9回校内研 (研究のまとめ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループ研究会の記録について ・各専門部会の成果と課題について ・紀要原稿について
2	3 (月) 17 (月) 26 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回研究推進委員会 ・第8回研究推進委員会 ・第10回校内研 (来年度の方向性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・紀要原稿の最終チェックについて ・来年度の研究について ・来年度の研究の方向性について